

学 位 論 文 要 旨

氏 名 龍 祐吉

題 目 学業的延引行動に関する実証的研究
—学業的延引行動の先行要因と否定的影響について—

1 本研究の目的

学業的な場面において、重要な課題の着手や完了を不必要に遅らせる行動を学業的延引行動という。熟慮的、計画的に最善、最適な準備を目的とした行動とは一線を画するものである。

学業的延引行動は、学業的な不適応的行動である。本邦においては、これまであまり注目されておらず、研究的報告が乏しく、そのため実践的な介入方法に関する有効な手立てが未解明である。したがって、学業的延引行動の関連する心理学的な要因に関する検討が遅れ、学業的延引行動および学業的延引行動によって生じるものと予見される諸問題に関して、今後教育実践的対応の遅れが生じる危険性がある。そこで、本研究では、学業的延引行動の克服は困難であること、さらには学業的延引行動に陥る経緯は多様であることを鑑みて、学業的延引行動の先行要因を「発達理論」「特性的要因」「養育態度」の3つの視座から詳細に検討した。さらには「学業的延引行動による否定的な影響」の視座から、学業的延引行動の特徴を明らかにするために、学業的延引行動による否定的な影響について実証的に検討を行うことを目的とした。

2. 本研究の内容と構成

第1章については学業的延引行動研究の動向と課題について記述した。第1節では、学業的延引行動研究の背景と問題提起を記述した。第2節では、学業的延引行動に関する先行研究と関連領域に関する研究を概観した。第3節では、本研究の課題を4つの視座から検討することを言及した。そして本研究の目的と意義、内容構成について言及した。第2章については、学業的延引行動の先行要因に関する発達理論に基づくアプローチについて注目した。第1節では、児童期の子どもを調査対象として、愛着の内的作業モデルと学業的延引行動との関係を検討した。第2節では、自我同一性地位理論に基づいて、4つの同一性地位と学業的延引行動との関係について検討した。第3章では、学業的延引行動の特性的要因に関わる先行要因に注目した。第1節では学業的達成目標と学業的延引行動との関係に注目した。第2節では自我状態の透過性調整力と学業的延引行動との関係を検討した。第3節ではエゴグラムの自我状態と学業的延引行動との関係を検討した。第4節ではセルフ・コンパッションと学業的延引行動との関係を検討した。第4章では学業的延引行動の先行要因として、認知された親の養育態度と学業的延引行動との関係について

検討することを目的とした。第1節では大学生(女子)を調査対象として、生活領域全般に関する養育態度と学業的延引行動との関係を検討した。第2節では、小学生の学業的領域における認知された親の養育態度と学業的延引行動との関係を検討した。第3節では、大学生の学業的領域における認知された親の養育態度と学業的延引行動との関係について検討した。第5章では学業的延引行動による否定的な影響に注目した。第1節では、学業的延引行動と学業的不正行為との関係を検討した。第2節では、学業的延引行動と自尊感情との関係を検討した。第6章では本研究の総括と今後の課題について論述した。第1節では本研究の要約を行った。第2節では、本研究の成果について記述した。第3節では、本研究の研究的並びに実践的寄与について記述した。第4節では、今後の課題と展望について記述した。

3. 本研究の結果

(1) 発達理論の視座に基づく検討における成果。1) 研究Ⅰにおいて、児童に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼす愛着の内的作業モデル、内発的動機づけの影響を明らかにすることができた。2) 研究Ⅱにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、自我同一性地位と学業的延引行動との関係を明らかにすることができた。(2) 特性的要因の視座に基づく成果。1) 研究Ⅲにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼす学業的達成目標と学習方略の影響を明らかにすることができた。2) 研究Ⅳにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、自我状態の透過性調整力と学業的延引行動との関係を明らかにすることができた。3) 研究Ⅴにおいて大学生に質問紙調査を実施することを通じて、エゴグラムの5つの自我状態と学業的延引行動との関係を明らかにすることができた。4) 研究Ⅵにおいて大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼすセルフ・コンパッションと学業的動機づけの影響を明らかにすることができた。(3) 認知された親の養育態度の視座に基づく成果。1) 研究Ⅶにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼす生活全般における認知された親の養育態度と自尊感情の影響を明らかにすることができた。2) 研究Ⅷにおいて、児童に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼす学業に関する認知された親の養育態度と学業的達成目標との関係を明らかにすることができた。3) 研究Ⅸにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動に及ぼす学業に関する認知された親の養育態度と学業的動機づけの影響を明らかにすることができた。(4) 学業的延引行動の否定的影響に関する視座の成果。1) 研究Ⅹにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動と学業的不正との関係を明らかにすることができた。2) 研究Ⅺにおいて、大学生に質問紙調査を実施することを通じて、学業的延引行動と自尊感情との関係を明らかにすることができた。

4. 本研究の意義

本研究は学業的延引行動に関して、学業的延引行動の先行要因を「発達理論」「特性的要因」「認知された養育態度」の3つの視座から、さらに学業的延引行動による否定的影響の視座から、合計11の実証的研究に基づき学業的延引行動の特徴を詳細に検討した。本研究の成果から学業的延引行動に陥る経緯は多様であり、学業的延引行動による深刻な影響があることが示唆された。今後学業的延引行動を抑制、緩和することを目的とした、個人差に応じた効果的な教育的介入方法の開発が期待できる。